

特殊金属エクセルの今期方針を聞く

特殊鋼やステンレスの冷間圧延加工などを手掛ける、特殊金属エクセル（本社＝東京都豊島区）は、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける厳しい市場環境下、緊急収益改善策を実行するなど、前期（2020年12月期）は経常黒字を確保した。オンライン取材を通じて谷口毅社長兼CEO、水谷徳次郎取締役兼COOに今期の方針を聞いた。

――足元の環境から有機ELへの移行も追い風になっており、高いデマンドが続く。

「世界的に新型コロナウイルス感染症の影響を受けているものの、当社は単月の受注金額が20年5月以降で徐々に回復し、埼玉事業所（埼玉県とさかがわ町）はフル稼働となっている。自動車生産台数の回復が大きな基軸になり、また果敢に需要に伴い、スマートフォンやタブレットなどモバイル端末、携帯ゲーム機の需要は高水準をキープ。特にモバイル端末は各種電子部品の需要増に

――前期決算を振り返って。

水谷取締役兼COO「特殊金属エクセルと海外事業会社4社を含めた高機能材料事業の特殊金属エクセル単体

影響を受けたものの、高機能材料事業会社は全社黒字を確保した。特殊金属エクセル単体

連結売上高は84億円と前期比5%の減収となり、経常利益は同11%の減益。コロナ感染症



水谷徳次郎
取締役兼COO

の決算は売上高が同8%減の51億円で、経常利益は7%の減益と、20年2月から緊急収益

た。香港特金もモバイル端末向け電子部品材料が堅調に推移し、過去最高益を更新している。

――今期見通しを。

谷口「今期もコロナ感染症収束を見通すことが難しく、これを前提として収益計画を策定しており、特殊金属エクセルと海外事業会社4社を含めた高機能材

上期フル生産

素材調達に注力

改善策を実行し、経費や製造コストを1億5000万円程度圧縮するなど、損益分岐点を2割程度引き下げ、利益を確保した。磨帯鋼の圧延加工を行う上海隆興特钢は繊維機械部品用を主体に生産・販売が好調で、差別化商品の販売量が前期比24%増加し、2期連続で過去最高益を更新し

料事業の連結売上高は前期比6%の減収で、経常利益は9%の減益をそれぞれ想定している。足元は自動車、5

め、ステンレスや特殊鋼、非鉄金属など素材を安定調達できるような力を注いでいきたい。

――設備投資計画は。

水谷「前期は約2億円を投じ、埼玉事業所で複合金属専用ベル型炉と溶融半田クラッドラインを

「NEXT-1戦略」(ネクストワン戦略)の進捗よくを。

水谷「NEXT-1戦略」は、新しい材料を開発・実用化することで医療などの新規分野開拓や、自動車など

次世代事業育成、24年めど収穫

STEMの追加導入に加え、クラッド圧延機の電気制御の高度化投資により、品質向上と生産性アップを目指す。

また、付加価値の高い金属箔の技術革新投資も検討している。

――新技術・新商品開発の進捗よく状況を。

水谷「成形性や打抜き性に優れる超微細結晶粒鋼「nanoSUシリーズ」や、強度・高延性を兼ね備えたステンレス鋼「JINシリーズ」の技術的な深化を推進。特にJINシリーズでは、SU301へ適用拡大を進め、「301JIN」として量産を開始した。また、表面改質処理によって耐食性を大幅に改善することに成功した。さらに、特金のベアスロード製品である高炭素メリヤス針用鋼の靱性と耐摩耗性の向上による高機能化をはじめ、nanoとJINを融合させて

既存分野の深掘り達成し、月間1億円の売り上げ増につながる次世代事業柱を育成するプロジェクト。至近2年間を種を蒔いており、24年をめどに収穫する。3億円に照準を合わせているが、モバイル端末分野で大口受注を見込んでおり、現時点で1億5000万円の売り上げ増はほぼめどが立っている」

――脱炭素など市場が大きく変化している。

谷口「カーボンニュートラルの動きは当初のスピード感よりもギアが一段も二段も上がっている。社員には「一人称の思考」を磨くように伝えている。需要家にとって社会にとって私、私達は何かできるかどうすればいいのかを一緒に考え、行動を起こしていけるよう思考にさらなる磨きをかけていきたい」

(濱坂 浩司)



谷口毅
社長兼CEO

過去最高益を更新し

う。埼玉で太陽光発電シ

野開拓や、自動車など